

## 『芸術学研究』原稿の書式について（投稿論文）

### 1. 投稿論文（横組）の場合

#### ◎本文頁（別紙見本を参照のこと）

- ・ 本文は、基本的には **9pt** 明朝体（英語の場合はローマン体）を使用する。
- ・ 注および引用文献は、基本的には **8pt** 明朝体（英語の場合はローマン体）を使用する。本文中の引用箇所には肩付き文字で<sup>1),注1</sup>のように使用順に明記する。本文の後に、次の例に従いまとめて掲載する。

（論文等の例）

- 1) 著者名、共著者も全員：表題、誌名、巻、号、頁、発行年  
（書籍等の例）

- 1) 著者名：書名、発行所、頁、発行年

- ・ A4 の紙面に、上余白 **20mm**、下余白 **25mm**、右余白 **23mm**、左余白 **23mm** の版面を用意し、2 段組みで収める。段間は約 **10mm**。（余白寸法は仕上がり状態でのもの。このまま数値入力しただけでは、仕上がり寸法が違ってくるがあるので注意）
- ・ 1 行につき **25** 文字。1 段につき **48** 行。1 頁全体で **2400** 字。
- ・ 本文中の小見出しは **9pt** ゴシック体（英語の場合はサンセリフ）を使用する。見出しの前は 1 行空けるが、見出しが段の最上の行に入る場合はこの限りでない。
- ・ 写真等の図版の説明用のキャプション、表や説明図等のタイトルは、**8pt** ゴシック体（英語の場合はサンセリフ）とする。図版キャプションは図の下に、表等のタイトルは図の上に入れる。

#### ◎タイトル頁（別紙見本を参照のこと）

- ・ 余白等の基本レイアウトは本文頁と同じ。
- ・ 別紙見本のように、段の上部に細太 2 本の罫線を引き、それに沿って論文タイトル、執筆者名、キーワード等を入れる。サイズ、書体は、見本のとおり。
- ・ 太罫の下スペースに、論文の「要旨（Summary）」をいれる。**25** 字詰め **30** 行を超えないこと。
- ・ 左の段を日本文用、右の段を英文用に使用する。

## 2. 投稿論文（縦組）の場合

### ◎本文頁（別紙見本を参照のこと）

- ・ 本文は、基本的には **9pt** 明朝体を使用する。
- ・ 注および引用文献は、基本的には **8pt** 明朝体を使用する。本文中の引用箇所には肩付き文字で<sup>(1), 注1</sup>のように使用順に明記する。本文の後に、次の例に従いまとめて掲載する。

（論文等の例）

（1）著者名、共著者も全員：表題、誌名、巻、号、頁、発行年

（書籍等の例）

（1）著者名：書名、発行所、頁、発行年

- ・ A4 の紙面に、上余白 **20mm**、下余白 **25mm**、右余白 **23mm**、左余白 **23mm** の版面を用意し、2 段組みで収める。段間は約 **8mm**。（余白寸法は仕上がり状態でのもの。このまま数値入力しただけでは、仕上がり寸法が違ってくるがあるので注意）
- ・ 1 行につき **39 文字**。1 段につき **31 行**。1 頁全体で **2418 字**。
- ・ 本文中の小見出しは **9pt** ゴシック体。見出しの前は 1 行空けるが、見出しが段の最右の行に入る場合はこの限りでない。
- ・ 写真等の図版の説明用のキャプション、表や説明図等のタイトルは、**8pt** ゴシック体とする。図版キャプションは図の下に、表等のタイトルは図の上に入れる。

### ◎タイトル頁（別紙見本を参照のこと）

- ・ 余白等の基本レイアウトは本文頁と同じ。
- ・ 別紙見本のように、段の右部に細太 2 本の罫線を引き、それに沿って論文タイトル、執筆者名、キーワード等を入れる。サイズ、書体は、見本のとおり。
- ・ 太罫の下スペースに、論文の「要旨（Summary）」をいれる。39 字詰め 16 行を超えないこと。
- ・ 上の段を日本語用、下の段を英文用を使用する。